



加須市長 大橋 良一氏

市長のメッセージ

加須市は、古き良き歴史を残した都市機能が集積する市街地と水と緑の豊かな農村地域が調和する田園都市です。

令和3年度は、新たに策定した第2次加須市総合振興計画のスタートの年度であり、本市の諸課題への解決に向けて始動する年度と位置付けたものであります。

具体的には、まずは新型コロナウイルス感染症対策に万全を期するとともに、埼玉県済生会加須病院の開院や災害対策をはじめ、少子化対策や長寿社会対策など、本市が抱える諸課題の解決に的確に対処し、本市の将来都市像「絆でつくる 緑あふれる 安心安全・元気な田園都市 加須」を皆様との協働により推進してまいりたいと考えております。

はじめに

加須市は、埼玉県の東北部、都心から50km圏に位置し、茨城県、栃木県、群馬県の3県と、羽生市、行田市、鴻巣市、久喜市と接している。関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流域にあり、利根川が運んだ土砂の堆積により形成された、高低差6mほどの平坦地にある。

市内には、東武伊勢崎線の加須駅と花崎駅、東武日光線の新古河駅と柳生駅があり、JR宇都宮線・東武日光線の栗橋駅も近接している。道路は、国道122号が南北方向に、国道125号と国道354号が東西方向に走るほか、東北自動車道の加須ICや圏央道の白岡菖蒲ICも便利に利用でき、交通利便性は非常に高い。

加須といえば「うどん」が有名だが、県内一の収穫量を誇る「米どころ」でもある。さらに、日本一の大きさの「ジャンボこいのぼり」（表紙写真）や埼玉県内初のラムサール条約湿地に登録された「渡良瀬遊水地」、関東三大不動尊の一つに数えられる「不動ヶ岡不動尊總願寺」をはじめとする歴史を伝える文化財など、数多くの見どころがある。

第2次加須市総合振興計画

市は本年2月、「第2次加須市総合振興計画」を策定した。平成22年3月の合併後、新加須市として策定した「第1次加須市総合振興計画」の計画期間満了に伴い、令和3年度から12年度までの10年間

を計画期間として策定したものである。

「絆でつくる 緑あふれる 安心安全・元気な田園都市 加須」を市の将来都市像とし、これを実現するための5つの基本目標―

「安心安全でいきいきと暮らせるまちづくり」

「未来へつなぐ人を育むまちづくり」

「魅力と活力を生む産業のまちづくり」

「豊かな自然と快適な環境のまちづくり」

「協働による持続可能なまちづくり」

―と、44の施策からなっている。また、横断的な取組として、「ICTを活用し、地域課題の解決・改善を図る」ことも盛り込まれている。

各施策はSDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールと明確に関連付けられ、また、本計画は「加須市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含していることから、総合振興計画と地方創生、SDGsは一体的なものとして推進される。



来年6月に開院する埼玉県済生会加須病院

加須市概要

| | |
|-------------------|-----------------------|
| 人口(2021年8月1日現在) | 112,368人 |
| 世帯数(同上) | 48,497世帯 |
| 平均年齢(2021年1月1日現在) | 48.4歳 |
| 面積 | 133.30km ² |
| 製造業事業所数(工業統計) | 269所 |
| 製造品出荷額等(同上) | 4,799.4億円 |
| 卸・小売業事業所数(経済センサス) | 807店 |
| 商品販売額(同上) | 1,913.9億円 |
| 公共下水道普及率 | 57.4% |
| 舗装率 | 69.7% |

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武伊勢崎線 加須駅、花崎駅
- 東武日光線 新古河駅、柳生駅
- 東北自動車道 加須ICから市役所まで約3km

重点施策に位置付けられる水害対策では、令和元年東日本台風などによる自然災害で得た教訓を活かし、迅速な情報収集と的確な情報提供を行うため、災害対策情報収集室を設置するとともに、希望する全世帯に防災ラジオの無償貸与やスマートフォンを活用した防災アプリの運用を開始し、できる限り早い段階で安全な場所に避難する自主的広域避難を呼び掛けている。

★来年6月、埼玉県済生会加須病院が開院

埼玉県済生会加須病院が、来年6月に開院する。新病院は鉄骨造、地上7階建ての免震構造の建物で、病床は感染症病床4床を含む304床、敷地面積41,380m²、延べ床面積22,800m²。加須駅南口から徒歩5～10分のところにある。

市内にはこれまで中核的な病院がなく、地域医療支援病院である公的医療機関の誘致活動を進めてきた。市は済生会栗橋病院に対し、病院建設用地の確保や周辺整備などを実施するとともに、建設費に対する財政支援を行うことにより、済生会栗橋病院の加須市への移転が決定した。昨年5月に建設工事がスタートし、順調に工事が進んでいる。

市民の永年の希望であった中核病院の開院により、医療体制は大きく向上し、加須市だけでなく周辺地域の人々が安心して高度な医療を受けることができるようになる。開院後は、埼玉県済生会加須病院と既存の市内外の医療機関との連携強化を図り、

地域全体で質の高い医療を提供する地域完結型医療を目指す。

★加須市観光サイクリング「KAZOLING」

平坦な土地にある加須市は、サイクリングに適したまちである。

昨年度は、加須市、加須市物産観光協会が、東武トップツアーズ(株)やブリヂストンサイクル(株)などと連携し、加須市観光サイクリング「KAZOLING」のブランド化を推進した。

今年度は、観光庁の支援を受け、着地型旅行商品「KAZOVENTURE」を造成する。指令書により次の行程を指示されサイクリングで市内を周遊、行程を全ては伝えない「体験型ミステリーサイクリングツアー」で、サイクリングしながら農業体験や、食体験、自然体験をする。将来的に旅行商品として販売することを視野に入れている。(樋口広治)



KAZOLING(KAZO+CYCLING)～加須はサイクリング天国だ。～